

海外の日本語教育を促進するために

－互いの言語の教育・学習に携わる生徒・教師・管理職の交流事業－

国際文化フォーラム (TJF) は、これまで海外の日本語教育と日本の外国語教育に関連する事業を進めてきました。この二つをつなぐことで、互いの言語教育の促進ができるのではないかと考え、①生徒間交流、②教師間交流、③管理職間交流事業に取り組んできました。以下にそれぞれの事業の目的、実績、成果などを紹介します。

1. 互いのことばを学ぶ生徒間の交流事業

(1) 目的

TJF は、韓国語や中国語、英語、日本語など、学んでいることばを実際に使いながらコラボレーション活動を行う生徒間交流プログラムを実施しています。こうしたプログラムでめざしているのは、以下のことです。

- ①学習している言語の運用能力を高めるとともに、コミュニケーションにおけることばの重要性に気づき、これからの学習意欲をさらに高める
- ②互いの言語で話し合い、一緒に活動することで、相互の文化的背景や他の人への関心、共感を育み、自分たちの文化への理解を深める
- ③新たな自分を発見し、視野を広げて問題解決能力を高め、仲間と共にものを創りだす力を身につける

(2) 実績・成果など

■ 「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」 (2011 年度、2012 年度)

主催：漢弁

実施：TJF

場所：中国吉林省長春市

参加者：日本語を学ぶ中国高校生 50 名、中国語を学ぶ日本の高校生 90 名

中国語を学ぶ日本の高校生約 90 人を中国に派遣し、日本語を学ぶ中国の高校生約 50 人と 10 日間、学校の寮で共同生活をしながら、さまざまな活動に参加します。

メインの活動は、ゲストを迎えて開催する「サマキャン☆文化祭」です。参加者は日中混合のチームに分かれ、主催者として、ゲストが楽しく参加できる企画を考え、準備します。4 日間、延べ 16 時間をかけて、文化祭のオープニングからエンディングまでの構成を考え、日中両言語で進行のせりふを考えたり、会場の設営などに取り組みます。日中の高校生は、学んだ中国語や日本語を記憶のなかから一所懸命引っぱり出したり、新しいことばを互いに教えあったりしながら意思疎通を図り、「サマキャン☆文化祭」をつくりあげていきます。

「サマキャン☆文化祭」の活動では、出会ったばかりの生徒たちのコラボレーションが

少しでも深まるよう、①グループをなるべく少人数にする、②複数の役割をもたせることで多くの人とのかかわりをつくる、③アイデアを出しやすくする、④自ら気づき、仲間から学べるようにする、⑤モチベーションを深めるためにゲストを迎える、などの工夫をしています。

プログラムに参加した日中の高校生の多くが、ことばを学ぶ喜びを実感するとともに、コミュニケーションにはことばだけでなく、相手を理解しよう、相手に伝えたいという想いが一番重要だと実感しています。

文化祭の準備や共同生活を通じて国やことばが違う人たちと濃密にかかわる経験をするによって、多くの参加者が、海外の人との交流や留学、国際的な仕事や国際社会の動きに関心を持ちます。また、外国語を話すことを怖がらなくなったり、もっと勉強したいと思うようになります。

日本側のある参加者は、「文化祭づくりで本当に交流したって感じがする。相手の中国語がわからないときに紙に書いてもらったり、中国語で伝えられないときに相手わかるジェスチャーを考えて使ったり。いろんな方法で伝えようと格闘しているうちに、コミュニケーションの引き出しが増えた気がする。今は、地元で日本語があまり話せない人に何か聞かれても何とかなるって思える」と語っていました。

■日韓のことばを学ぶ中高校生交流プログラム「SEOUL でダンス・ダンス・ダンス」(2012年度～)

主催：TJF、秀林文化財団（韓国）

期間：4泊5日（日本側は事前研修を含め5泊6日）

場所：韓国ソウル市

参加者：韓国で日本語を学ぶ中高校生18名、日本で韓国語を学ぶ中高校生18名

日韓ともに公募で決定した36名の参加者がソウル市内の宿舎で4泊5日の共同生活を送り、創作活動（テーマはダンス）に取り組むとともに、協働活動を通して互いの理解を深めます。同時に、外国語を学ぶモチベーションが高まるような工夫として、韓国の高校生が日本の中高校生をソウル市内の買い物体験に案内するプログラムも取り入れています。

また、生徒が創作したダンスの発表会を行い、ソウル市内の学校で日本語を学ぶ中高校生（本プログラムの参加者以外）やその保護者も招き、より多くの生徒たちの日本や日本文化に対する関心や日本語学習への意欲向上へとつながるような仕掛けもつくっています。

プログラム終了時に参加者が、①さまざまな価値観をもった人たちがいることを知り、一緒になにかをすることに興味、関心が広がっている、②もっと韓国語、日本語を学びたいことを目標に設定していますが、参加者からは、「日本語をたくさん勉強して、後で日本の人に出会うことになったら話してみたい」「ここで出会った友達とたくさん連絡をとって私が韓国語をもっと勉強して成長した姿をみせたい！」「色々な国の学生たちと、もっとたくさん交流していきたいと思った」などの感想を聞くことができ、毎回、一人ひ

とりが目標を達成していることが伝わってきています。

■ 「りんごの交流」(2014、2015 年度)

主催：TJF、中等日本語課程設置校工作研究会（中国）

期間：3 日間（2014 年度）、5 日間（2015 年度）

場所：東京

参加者：日本語を学ぶ中国の高校生 18 名、中国語を学ぶ日本の高校生 18-21 名

2012 年度で一旦終了した前述のサマーキャンプに変わって、日本語を学ぶ中国の高校生 18 名を後述する管理職のプログラムと同時期に日本に招き、中国語を学んでいる日本の高校生と交流するプログラムを 2014、2015 年度に実施しました。2014 年度は、中国語学習者を全国から公募し、2 泊 3 日の合宿を実施しました。2 泊 3 日といっても交流できるのは、実質一日半。なるべくたくさん会話が生まれることを目標に、初日は身体をほぐす活動からスタートし、自作の紙芝居を使って部屋を歩きまわりつつ全員に自己紹介しました。2 日めは、一緒に浅草や原宿に出かけ、夜にはそこで発見したことを話し合い発表する活動を行いました。

2015 年度も同様に日本語を学ぶ中国の高校生を招聘し、今回は横浜市立みなと総合高校に受入れをお願いし、4 日間高校生活を経験してもらう方式にしました。同校には、国際交流に関心のある生徒たちが登録して活動するバディ制度があり、バディの生徒たちが中国の生徒とペアになって学校生活をエスコートしてくれました。中国の生徒たちは、英語や歴史、体育、家庭科など、バディと同じ授業に参加しました。また、放課後や休日は、バディと浅草観光に出かけたり、ホームビジットをしたりと、日本滞在のほとんどをいっしょに過ごしました。

日本の高校生は、「ずっと日本語で話してくれていた。中国語を話せないことが申し訳なかった。中国語の勉強をがんばる！」と中国語学習に対する意欲を見せ、中国の高校生の感想を見ると、「自分が大きく変わったのは人との接し方で、素直にお礼とお詫びを言うようになった。これは日本人のいいところだと思う」など、日本や日本人への関心がより高まっていることがわかります。

共催する中等日本語課程設置校工作研究会の全会員校から生徒を招聘したので、本プログラムは 2015 年度をもって終了しました。

2. 互いのことばを教える教師間の交流事業（2014 年度、2015 年度）

(1) 目的

同じ中等教育で互いのことばの教育にかかわる者同士、日中、日韓、日露間で交流プログラムを実施しています。生徒と向き合う日常や、ことばを教える意味やおもしろさ、悩みや課題、工夫していることなどについて語り合うことを通じて支え合える仲間ができたり、ネイティブの自然な表現や当該学習言語が話されている地域の最新事情、交流先を知るきっかけを提供することをめざしています。

(2)実績・成果など

■日韓教師交流プログラム（2014年度、2015年度）

国際交流基金日本語国際センターが毎夏実施している「大韓民国中等教育日本語教師研修」の期間中の半日を使って日本の高校で韓国語を教えている教師との交流プログラムを実施しています。

主催：TJF、国際交流基金日本語国際センター

期間：半日

場所：国際交流基金日本語国際センター（さいたま市）

参加者：韓国の中高校の日本語教師 40-50名程度、日本の高校の韓国語教師 10名程度

2014年度は、韓国の日本語教員が、日本の高校の韓国語教育の状況についての特別講義を受けた後、日韓の教員がグループに分かれ、生徒が「これから1年間頑張るぞ」、「おもしろそう」と思うような最初の日本語の授業をグループ（4人～5人）で作成することをめざしました。2015年度は、教師として互いを理解することをめざし、日本語／韓国語の教師として、あるいは教師として、大事にしていること、生徒のモチベーションを高めるために工夫していることをテーマにグループで話を深めてもらいました。

韓国の日本語教師は毎回違う先生が参加するのですが、日本の高校韓国語教師は、数が限られているため、夏休み期間とはいえ、参加者の確保が難しいことが目下の課題です。日程の関係もあり2016年度は実施にいたりませんでした。

■日中教師交流プログラム（2015年度）

2015年度は、前述の日韓教師交流プログラムに加えて、「中国中等日本語教師研修」のうちの半日を使って日本の高校で中国語を教えている教師との交流プログラムを実施しました。学習者のモチベーションを高めるには何をどうすればよいかを大きなテーマに、いくつかの活動を一緒に体験するプログラムとしました。

研修期間の関係で、交流プログラムの実施が平日となることから、日本側の教師の参加が難しいというのが目下の課題です。

主催：TJF、国際交流基金日本語国際センター

期間：半日

場所：国際交流基金日本語国際センター（さいたま市）

参加者：中国の中高校の日本語教師 20名程度、日本の高校の中国語教師 8名程度

■日露合同教師研修

TJFは、日本にとって隣国・隣人のことばの学習を通して相互理解を深めながら信頼関係を築いてこそ、より良い社会を創っていくことができると考え、その理念に基づく「外国語教育と交流のサポート事業」を実施してきました。そうした事業の一環として、2015年

度より日露において互いのことばを教える教師の相互的な学びと交流を通じて、互いの言語教育と文化理解を促進し、教師の教え子たちである日露の若い同世代間の相互理解を深めることをめざした本交流プログラムを実施しています。

2015年度は、国際交流基金モスクワ事務所の協力を得てモスクワ(4名)とノボシビルスク(2名)、計6名の高校日本語教師を8月に日本に招聘しました。日本滞在期間中、2日にわたり、日本の高校・大学のロシア語教師との合同研修を実施しました。2016年度には、この研修に参加した日本側教師のうち7名と彼らの生徒12名、計19名をモスクワ、ノボシビルスクに派遣し、期間中に第2回の日露合同教師研修を実施することになっています。

主催：TJF、日露青年交流センター

共催：林田理恵（大阪大学教授） 科研、横井幸子（大阪大学講師） 科研

※日露教師合同ワークショップの教材、カリキュラム、講義を中心に

参加者：ロシアの高校日本語教師6名、日本の高校・大学のロシア語教師10名

招聘期間終了後も、教師たちが互いに連絡をとりあえる場をネット上に作るとともに、第2回の合同研修に向けて、日露の教師がグループで活動するタスクを課したことで、日常的な交流が続いていることは、一つの成果だと考えています。

3. 互いのことばの教育にかかわる校長交流事業

(1) 目的

TJFはこれまで、中国語、韓国語、日本語教育に携わる先生方と一緒に、教師研修、教材開発など、教育の内容を充実させることに取り組んできました。こうした取り組みは、一定の成果をあげてきましたが、今後、中国や韓国の日本語、日本の中国語や韓国語教育を定着させ、さらに裾野を広げるためには、より多くの学校の責任者の理解とサポートが必要だと考えています。

こうした状況を踏まえ、TJFは他団体と協力しながら、日本の管理職の派遣、海外の管理職の招聘事業を実施し、現地の教育現場や・文化体験とともに管理職同士の交流の場を提供し、双方の教育内容の充実を図っています。

(2) 実績と成果など

■ 日中校長交流会

2014、2015年度は、中国で日本語教育を実施している、あるいは日本語教育の導入を検討中の中高校の校長等管理職を日本に招聘し、中国語教育実施校の訪問や、教育関係者との意見交換の機会を設けました。その成果として、交流会に参加した学校の中から、一組が姉妹校交流の協定を締結しました。2015年度は引き続き中国から約20名の管理職を日本に招聘し、日本の教育関係者との交流プログラムを実施しました。

2015年度の参加者間では、まだ具体的な交流にはいたっていませんが、参加した日本側の管理職の中国に対するイメージは、「行くのが難しそうなところ」から「ちょっと行って

みてもいいかな」など、変化の様子が見てとれます。

主催：TJF、中国中等日本語課程設置校工作研究会

期間：半日

場所：東京

参加者：中国の中高校の管理職約 20 名、日本の高校の管理職など 10 名程度

■ 日韓校長交流会

2015 年度から、東京都と神奈川県それぞれの韓国教育院の協力を得て、韓国語教育を実施している中高校の管理職を韓国に派遣し、韓国滞在中に現地で日本語教育に取り組んでいる中高校の管理職との交流会を国際交流基金ソウル日本文化センターと共催で実施しています。2016 年度の交流会には、日韓ともに 10 校程度の学校の管理職が参加しましたが、そのうち 3 組が学校間交流に向けてのやりとりを開始しました。

また、2016 年 11 月には、日韓文化交流基金の韓国からの招へいプログラムで、交流会に参加した韓国側管理職のほとんどが来日することとなり、さらに学校間交流にはずみがつくものと期待されます。

主催：TJF、国際交流基金ソウル日本文化センター

期日：半日

場所：韓国ソウル市

参加者：韓国の中高校の管理職、日本の中高校の管理職 各 10 名程度